２００５年度「学生による授業アンケート」結果報告について

フェリス女学院大学　２００５年度自己点検・評価委員会
委員長　大河内君子

フェリス女学院大学では、授業をより良いもの、より効果的なものに改善していくために、「学生による授業アンケート」を実施しています。本学の自己点検・評価委員会では、この集計結果を組織的に授業改善に結びつけていくための方策や仕組み作りについての検討を進めてきましたが、２００５年度から、まず、この結果を学生及び保証人のみなさまにご報告することとしました。
「学生による授業アンケート」は、当然のことながら、結果を公表すること自体が目的ではなく、どのようにこの結果を授業改善に結びつけていくかがその目的となりますので、今回の結果報告にとどまらず、これを受けて、本学としてどのように取り組んでいくのかといった内容についても、今後積極的に情報を発信していきたいと考えています。

１．２００５年度「学生による授業アンケート」実施概要について

【前期】
＜実施期間＞　２００５年6月２８日　～　7月２０日
＜実施科目数＞　２７９科目
（基礎教養・総合課題科目：４７、英文学科専門科目：３６、日本文学科専門科目：４３、コミュニケーション学科専門科目：２７、国際交流学科専門科目：４９、音楽学部専門科目：５９、教職課程科目：１３、留学生専用科目：５）
【後期】
＜実施期間＞　２００５年１１月３０日　～　２００６年1月２３日
＜実施科目数＞　２１１科目
（基礎教養・総合課題科目：４１、初習外国語科目：５２、英文学科専門科目：３０、日本文学科専門科目：３４、コミュニケーション学科専門科目：２２、文学部共通科目：5、国際交流学科専門科目：3、教職課程科目：１３、留学生専用科目：１１）
【実施方法】
アンケートは無記名式とし、その趣旨から担当教員が直接配布や回収を行うことは避け、取りまとめの学生を指名し、指名された学生が代表としてアンケートの配布・回収を行い、とりまとめて所定の提出場所に提出する。

２．集計方法について

設問は、選択式（ＯＣＲ）と記述式からなり、選択式（ＯＣＲ）は、共通設問の（１）～（２２）と、担当教員が独自に内容を設定する（２３）～（２６）に分かれています。今回の集計に際しては、選択式（ＯＣＲ）の（２２）までを対象とし、さらに、共通の設問のうち（１）と（２）については、それぞれ「この授業を履修する際に参考にしたものは何ですか」「この授業を受講した理由は何ですか」という、どのようにその授業を選択したかを問う内容なので、集計対象外としました。

記述式は（２７）「この授業で良かった点を書いて下さい」、（２８）「この授業で改善してほしい点を書いて下さい」、（２９）「この授業で扱ってほしい内容について書いて下さい」という３つの共通設問と担当教員が独自に内容を設定できる設問１つで構成されています。

選択式（ＯＣＲ）については、各設問に対して、Ａ（とてもそう思う）、Ｂ（ややそう思う）、Ｃ（どちらともいえない）、Ｄ（あまりそう思わない）、Ｅ（まったくそう思わない）の５つ選択肢の中から、該当する１つを選択する形式となっています。２つ以上選択した場合、何も選択されていない場合には無効回答として処理され集計の対象からは除外されます。これらのＡ～Ｅの選択肢に対して、Ａ＝５、Ｂ＝４、Ｃ＝３、Ｄ＝２、Ｅ＝１のポイントを乗じ、各設問における合計ポイントを有効回答数

で除した数値（小数点第三位を四捨五入）を評定平均値としています。（３）～（２２）までの各設問の内容及び評定平均値についてはグラフをご覧下さい。

なお、担当教員には、選択式（ＯＣＲ）のすべての数値化された集計結果をデータ化して、記述式回答と共にフィードバックしています。

３．集計結果について

２００５年度の前期・後期の結果から、両セメスター（学期）の結果を通じて、２つの傾向が見えてきました。その具体的な内容についてご紹介します。

■学生・教員の授業に対する熱意が高い

各設問における評定平均値は、集計対象とした２０項目のうち前期は１３項目、後期は１５項目で４．００以上の数値を示しており、全体としてみれば、学生の本学授業に対する満足度は高いと考えています。特に「この授業へは熱心に出席した。」という設問では、前期：４．３９、後期：４．３８、「教員の授業に対する意欲・熱意が感じられた。」では、前期：４．３７、後期４．４５と、両セメスターを通じて設問中の１番目と２番目に高い値を示しており、このことから教員・学生の双方が、授業に対して熱意を持って、積極的に取り組んでいるという傾向が見えてきました。

■授業外学習への指導に関する問題点

その一方で、「この授業のために予習や復習をした。」では、前期：２．９４、後期：３．０３と両セメスター共にもっとも低い数値を示し、また、「この授業の内容について自分自身で学習するための方法が説明された。」では、前期：３．６０、後期３．７４という２番目に低い数値でした。この結果からは、大学における授業外の学習指導についての問題点が浮かび上がってきます。

フェリスでは、各授業科目の単位数は１単位につき４５時間の学修を必要とする内容で構成することを標準としており、この４５時間の中には授業時間の他に予習・復習等の自習時間があらかじめ含まれています。つまり、大学の授業は、単に授業に出席していれば良いというものではなく、授業外の学生の自習時間がその前提となって成り立っているのだということになります。例えば、本学の講義科目は、授業時間１５時間をもって１単位としていますので、１単位を修得するためには、標準の４５時間からこの１５時間を引いた３０時間が授業外の学習時間として必要とされるということになります。

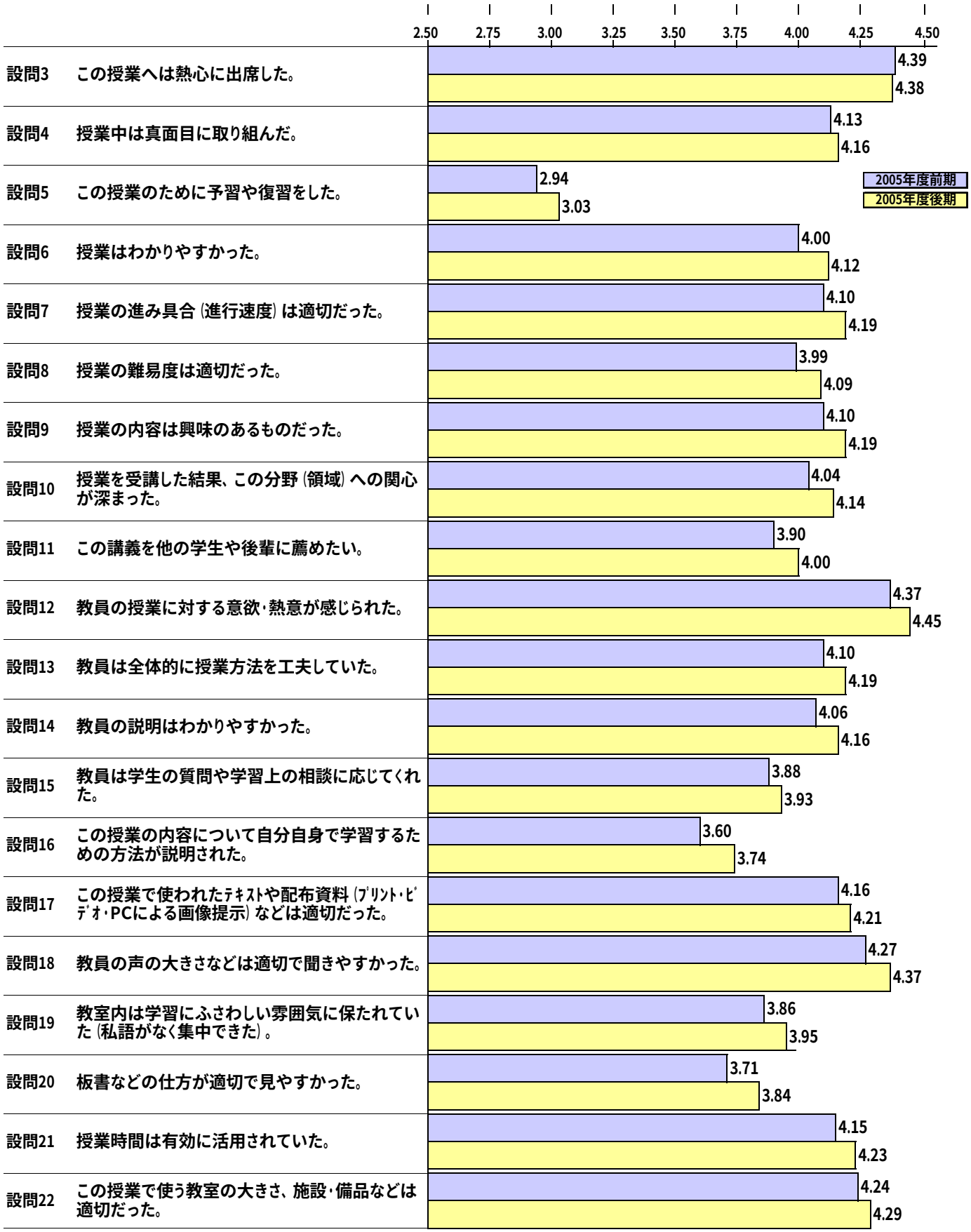
このような単位制の考え方からすると、授業外学習への指導に関する評価の低さは解決すべき大きな課題であると捉えています。今後の傾向なども分析しながら、どこに原因があり、それを改善していくためには具体的にどのように取り組んでいくべきかということについて、さらに検討を進めていきたいと考えています。

（なお、今回の集計には音楽学部のレッスン科目は対象に含まれていません）

４．今後に向けた取り組み

今回の結果のみですべてを判断することはできませんが、良い点・悪い点を含め大学として結果を真摯に受け止め、問題がある内容については全力をあげて解決に取り組んでいきたいと考えています。

２００６年度から実施する具体的な取り組みのひとつとして、組織的に授業改善をサポートする仕組み作りを進めていきます。従来は「学生による授業アンケート」の集計結果は各担当教員にフィードバックされ、その結果を受けてどのように授業改善をしていくかということについては、教員個人に委ねられてきました。しかし、多様化する課題を解決していくためには組織的に対応していく必要性があるとの判断から、２００６年度より、セメスター（学期）毎の集計結果（統計資料）を、科目を管理・運営している各委員会に戻して内容について検討を行い、その検討結果を受けて、状況に応じた組織的なサポート＝ファカルティ・ディベロップメント（教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称）と連動させる仕組みを実施していくことを計画しています。

この取り組みをはじめとして、今後も、学生と共に授業をより良いもの、より効果的なものに改善していくために、大学として全力をあげていきたいと考えておりますので、よろしくご支援くださいますようお願いいたします。

2005年度授業アンケート集計結果 【各設問における全体の評定平均値について】